

1 研究主題

『新たな時代を切り拓き よりよい社会を創り出していく日本人を育てる中学校教育』
～昨年度までの各校の実践交流と校内組織の機能化の成果を活かし、自校の課題にあった働き方改革を進め、小樽市小中学校全体の業務改善に役立てる～

2 研究推進の概要

活動計画	評価（成果と課題）
(1) 学校組織の機能化～教職員の経営参画意識の向上と人材育成～	① 校長会として取り組んできた「学校の組織化」が着々と形になってきている。コロナが明け、「令和の日本型学校教育」の実現に向け、各校の実態に応じた授業改善の動きや教育DX化が加速している。中学校校長会では、小中の枠を超え、「働き方改革」に係る実践を集め、他校の実践に学ぶ機会を設定した。これらの動きを通して各校で育った人材の活躍が頼もしい。
(2) 業務改善の推進～ICT等を活用した業務の見直しと働き方改革の推進～	① 校長会全体で「働き方改革」に関する先行事例を共有し、校内組織の組織化と機能化に役立てた。研究部としては、ひきつづき「教頭」「主幹教諭」「教務主任」の勤務時間の経年データを取り、業務の量的変化を捉え、改善の進捗状況の一資料とした。 ② 引き続き「働き方改革」の推進に向けた好事例を交流していく。更に、ひきつづき全市的な「教育DX化」や「具体的な業務整理の動き」を校長会がリードすることで、令和6年度に向けた業務の効率化の成果を全ての学校にもたらしたいと考える。
(3) 人材育成	① 人材育成に係る研修を小学校校長会研修部と協力し、年3回実施した。第1回目・2回目は、管理職・ミドルリーダー育成に係る研修を実施。第3回目は、講師にNPO法人ほっかいどう学推進フォーラム理事長の新保元康先生を講師に、講演会を開催した。学校DXを働き方改革の方法論として狭く捉えるのではなく子どもの学びの質を転換する転機と捉え、地域の未来づくりを担う学校教育の充実に向け、多くの示唆をいただけたものとする。
※ 道中校長会・全日本中学校長会	※ 4年ぶりの会同型の開催となった道中学校長会研究大会小樽大会を主幹地域として実施し、道中役員の皆様の助言を活かし、成功裏に終えることができた。全日本中学校長会研究大会大分には村上会長、伊藤副会長が参加した。
(4) 研究紀要の刊行	① 1年間の足跡を残すため、各研究大会の概要および働き方改革にかかる研修記録、業務改善の推進に係るアンケート結果や、ICT活用に関する松山研修の還流資料等、来年度十勝・帯広大会の第4分科会の研究につながる内容を中心に掲載した。

3 研究の成果と課題

今年度、小樽市校長会としての重点目標を受け、校長会事務局、小学校長会研修部、中学校長会研究部がそれぞれ役割分担し研修を進めてきた。4年ぶりに会同型となった北海道中学校長会研究大会小樽大会を主幹として実施するなかで、全道の校長会の取り組みを学ぶ機会にも恵まれた。

また、「コロナ後」の学校において、「令和の日本型学校教育」の実現が求められ、教育DXやGIGAスクール構想を前提とした授業づくりが進められている。ベテラン層における授業づくりの意識の改善が課題として残されている。また、「働き方改革」の推進の面からも教育DXの有用性は明らかであり、従来の『校内組織の機能化』『小中一貫教育の推進』『人材育成』等の切り口に加えて、校内における業務の効率化に一役かっている。

一方、人材育成に係る「職能向上研修会」をオール小樽で取り組む体制も定着し、各校において未来の管理職候補の発掘及びミドルリーダーの学校経営参画意識の高揚が見られるようになった。

1 研究主題

『新たな時代を切り拓き よりよい社会を創り出していく日本人を育てる中学校教育』
 ～これまでの各校の実践交流と学校組織の機能化や人材育成の成果を活かし、自校の課題に
 あった働き方改革を進め、小樽市小中学校全体の業務改善に役立てる～

2 研究主題設定の趣旨

小樽市校長会は、昨年度、重点目標①学校組織の機能化（指導的立場としての教務主任の機能化：組織の系統化によるスピーディな意思決定と小樽市内いずれの学校においても継続的に、校長職を全うできる学校づくり。）とした。前年度までの研究の視点、②業務改善の推進、③小中一貫教育の推進、④人材育成の3観点も合わせ、4観点から研究を深めてきた。校長会事務局を中心に学校組織の機能化を、小学校長会研修部を中心に学校経営の参画意識を高める人材育成を、中学校研究部が中心となり業務改善を進め、アンケートによって各校の実態を捉え、他校の事例や先行事例に学び「働き方改革」を推進し、業務改善の定着を図ってきた。

小樽市校長会研究部は、北海道研究大会における今後の研究発表を視野に入れ研修を深めること、また、小樽市全ての小中学校の現状を把握し、改善に向けた提案をするとともに、市内の共通課題解決のためにタグを組むこと及び研究内容を校長会全体に還元することで、小樽市校長会が掲げるテーマ『自走と共走』の実現を図っていく。小樽市中学校長会では、今年度の道中での提言発表に向け、その内容である「勤務時間を意識した働き方の推進と学校運営体制の充実」を受け、「働き方改革」と「学校運営体制の充実」を中心に研修を進める。今年度は各校の業務改善につながる実践をもとに、各校の業務改善のアイデアを重ね、各校の課題に合わせた働き方改革を進めていきたい。

3 研究内容

- (1) 「学校運営組織の機能化～教職員の経営参画意識の向上と人材育成～」
- (2) 「業務改善～教育DXと働き方改革の推進～」

※各校の課題に合わせた働き方改革～小中一貫教育の推進・通知表の見直し・CSの活用等

4 研究推進計画

- | | | | |
|-----|--|---|------------------|
| 5月 | 定例校長研修会議にて研究部活動計画案検討 | | |
| 6月 | 中学校研究部会としての方向性の提示：北海道中学校長会研究大会十勝・帯広大会の提言概要（第1稿）の提示 | | |
| 7月 | 資料をもとにした提案他 | ： | 〃 の提言（第2稿）とPPの提示 |
| 8月 | 課題改善に向けた各校の取組み状況の確認 | | |
| 9月 | 研修内容にもとづいた研修 | ： | 〃 のリハーサル |
| 10月 | 今年度前期における成果・後期における課題の提示 | | |
| 11月 | 実態交流 | | |
| 12月 | 実施状況確認 | | |
| 1月 | 次年度に向けた方向性の確認 | | |

5 研究組織

部長	山本 俊次	(望洋台中学校)	・	村上 俊一	(菁園中学校)
	駒場 秀剛	(西陵中学校)	・	代永 研	(桜町中学校)
	佐川 聖明	(潮見台中学校)	・	大山 倫生	(朝里中学校)